みんなの顔が見えるまち

人権シリーズ vol.9

差別の勉強をして

国見中学校3年
岐部　和歌子

「部落差別」という言葉の意味を知ったのは、小学校五年生くらいのころでした。そのころはまだ、話がむずかしくて、だいたいのことしか理解していませんでした。

中学生になり、道徳の時間に先生が話をしてくれました。なんの根拠もない「部落差別」のせいで、命をおとした人。今も苦しい思いをしている人がいることを、知りました。

私たちは、北代いろさんというおばあさんの話を聞きました。いろさんは、小さい頃から差別にあい、学校にもいけず、家の手伝いをしていたそうです。学校に行けないということは、もちろん勉強もしていません。やりたくてもできなかったのです。だから、おばあさんになって、字をいっしょうけんめい覚えたんだと思います。私たちは今、学校に行き、勉強をしたり、友達と話したり、毎日を楽しくすごしています。でも、いろさんはやりたいことを自由にできない、そんな環境で生活していたのです。いろさんのほかにも、そんな思いをした人が、たくさんいると思います。「部落の人だから」という理由で結婚を断ったり、会社に入れなかったり、たくさんの例を聞きました。私は（どうして差別は今もつづいているんだろう。）と、思いました。もともと「部落差別」は、江戸時代に、幕府が身分をわけ、一番下の位をつくったころから、始まったと聞きました。

なぜ、今もその差別がつづいているのでしょうか。

一つは、「部落差別」を知らない人がいるからだそうです。知らなかったら、差別をされている人がいても、まちがった意見を持って、助けてあげられないかもしれません。

二つ目は、「部落差別」を知りながら、（自分には関係ない。）と、知らないふりをする人がいるからだそうです。もし、自分が口を出せば、今度は自分も同じ目に合うんじゃないかなあと、思って知らないふりをしているんだと思います。

三つ目は、「部落差別」が正しいと思っている人がいるからだそうです。これは絶対に、いけないことだと思います。もし、自分が、差別にあったら、どんな思いをするのか、自分の立ち場にかえて、もっと真剣に考えてほしいと思います。私は、「部落差別」にあっている人と、まだ出会っていません。

これから先、出会うかもしれません。もし「部落差別」にあっている人と出会ったら、「部落差別はまちがっていると知りながら、周りで見ている人」ではなく、「部落差別はまちがっているといえる人」に、なれるといいです。

「部落差別」だけでなく、世界には「人種差別」や「男女差別」など、ほかにもたくさんの差別があります。差別はされる人がなくしていけるものではありません。周りの人が（自分には関係ない。）（自分は差別されないから大丈夫。）など思わず、（自分がもし同じめにあったら、周りにどんなことをしてほしいか。）を考え、行動していくことが大切だと思います。

「差別」という言葉をなくしていくことが必要だと思います。